

RUBeC 演習を終えて

堀内 亜 侑

Ayu HORIUCHI

物質化学専攻修士課程 1年

1. はじめに

RUBeC とは、「Ryukoku University Berkeley Center」の略であり、龍谷大学の北米を拠点とする教育・研究施設です。私は、夏休み期間中の 2018 年 8 月 18 日から 9 月 3 日までの期間を利用し、そこで行われた RUBeC 演習 I に参加しました。その科目の中でライティングやプレゼンテーションの講義を受け、また現地の企業である Keysight Technologies と龍谷大学の協定校であるカルフォルニア大学デービス校 (UC Davis) を訪問しました。それらの活動内容について報告します。

2. 参加目的

今回、私がこのプログラムに参加した理由は二つあります。一つ目は、私は海外に渡航した経験がなかったため、日本とは異なる文化や生活様式などに触れ自身の視野を広げることです。二つ目は、英語を話す機会を増やすことで話す英語のスキルを磨くことです。

3. 授業内容

3.1 テクニカルライティング

この授業は 9 時から 11 時半までの午前中の授業でした。事前準備として研究内容についての要旨を作成し臨みました。授業内容としては一週目に要旨を直していくために必要な文法を学び、二週目では自分の要旨を直していき最終日には自分の研究内容について要旨を参考にしながら 2 人 1 組となりディスカッションを行いました。文法では日本人が苦手としている冠詞や短い文と文をつなぐ接続詞などを丁寧に教えていただきました。要旨については個人面談も行って直接先生からご指導をいただき、より



ディスカッションの様子

よい要旨を作成することができました。また、最終日のディスカッションでは最初は相手に分かりやすく伝えるのが難しかったのですが、回数を重ねるごとにコツを掴み相手に理解してもらえるという喜びを感じることができました。

3.2 プレゼンテーション

この授業は 13 時から 15 時までの午後の授業であり、事前準備として研究内容についてのパワーポイントを作成して臨みました。授業内容としては、作成してきたスライドの原稿を考え発表練習を行い、最終日に発表会を行いました。授業での先生は人前で話すときはアイコンタクト、ジェスチャーをすることが大事だということを実演しながら教えてくださるのでアイコンタクトやジェスチャーなどがあるのでないのでは聞き手の感じ方が全く違うことを体感することができ、それらの大切さを強く感じることができました。また英語の話し方として一文に切れ目を入れる「chunking」や一文の中で発声の強弱をつける「stressing」は今までに意識をしたことがなかったので発表練習を行う上では苦勞しました。これらを身に付けるために、発表用の原稿に一文の中に切れ目を入れたり、強調したい単語には印をするなどの工夫をして発表練習を重ねていきました。発表会本番では、授業を行っていた教室よりも広い講堂で行ったため少し緊張はしましたが自分のできる精一杯の発表はすることができました。これからスライドを用いて相手に何かを伝えるという機会は多々あると思うので、この授業で学んだことを生か



発表会の様子

していきたいと思います。

4. Keysight Technologies と UC Davis の訪問

Keysight Technologies はカルフォルニア州サンタローザを拠点とする電気・電子機器の開発から製造・販売・サポートまでも行っている世界最大規模の測定機器メーカーです。訪問させていただいて、ICチップの製造過程や製造された機器の点検を行っているロボットなどを見学させていただきました。また社内にはフォトコンテストでの優秀作品が飾られており、日本の企業とは違う雰囲気を感じることができました。

UC Davis はカルフォルニア州デービス市に存在する州立大学です。キャンパスはとにかく広く生徒はバスや自転車でキャンパス内を移動するため、道路が一般道路のように整備されていました。また、学内でのバスは生徒が運転していたり、異なる学科の人たちと研究のことで議論したりと学生が自主的に行動されていることを知り刺激を受けました。

5. ホームステイ先での生活

ホームステイ先のホストファミリーは英語しか話すことができないので、英語のみでコミュニケーションを取っていました。その中で、私は自分から話しかけるときはなるべく単語をならべるのではなく文章を頭で組み立てて話すことを心がけていました。相手に分かってもらえたときはとても嬉しかったです。しかし、コミュニケーションは上手いかならないのがほとんどで聞く方では単語と単語の発音の違いが分からなかったり、話す方では発音が違って通じなかったりと発音がとても大事だということを感じ知らされました。

6. おわりに

RUBeC 演習を通じて英語の能力が上がったという実感は約2週間という短い期間であったということもあり、あまり湧いていません。しかし、英語を話すという度胸は身に付いたと思っています。またコミュニケーションがうまく取れないもどかしさを感じるが多々あったので、これからは海外に行ったときに使える英語を身に付けられるような勉強をしていきたいと思いました。さらに渡航前はアメリカで犯罪やトラブルに巻き込まれるのではないかと不安がありましたが無事大きな事件や事故なく2週間で過ごすことができましたので、海外に行くことに対する抵抗感がなくなりました。なので、これから海外には仕事やプライベートに関わらず積極的に行きたいと思っています。